とよのっこ

学校便り
長野市立豊野西小学校

10月
平成２３年度

１０月　平成２３年度の後半スタート

１年生が畑から，自分の顔と同じくらい大きなサツマイモを抱えてきました。３年生のりんごが，赤く色付いてきて収穫間近となってきました。５年生は，稲刈りを終えました。６年生の菊が立派な花を咲かせ始めました。４年生のジャガイモ，２年生のトマトから始まった，各学年学級で育ててきた作物の収穫（開花）も終盤を迎えています。

１０月，植物は花を咲かせ実を結ぶ秋となりました。学校では，平成２３年度の前半から後半へと移る月です。児童たちもこれまで頑張ったことが，花開き実を結ぶ頃と言えます。特に，９月の運動会と今月２６日の音楽会では，自身の努力とその成果が実感できる機会となりました。また，１０月７日の全校飯ごう炊さんでは，協力することの楽しさを味わうことができました。たくさんの成果（成長）があった１０月でした。

しかし，児童たちの成長に終点はありません。ここでの成果が，次への出発点でもあります。平成２３年度も後半へと進んできました。これまでの成長をもとにさらに大きく成長していってほしいと願っています。

学校重点目標の取り組み

きく・話す「自分の言葉で伝えられる子ども」

１０月５日（水）に，長野上水内の先生方が各教科ごと会場校に集まって研修する，教育課程研究協議会がありました。本校では，今年度理科の会場校となりました。当日は，学校の周りの豊かな自然を生かした授業のあり方を３年２組での授業を通して，研究しました。

今回の授業では，「こん虫の体のつくり」についての学習で，いろいろな虫を調べ，それが昆虫かどうかグループで話し合って決めていくという場面の学習でした。児童たちは，自分の選んだ虫を真剣に細かいところまで観察をしてきたので，話し合い活動でもしっかりと自分の考えを述べることができていました。学校重点目標の「自分の言葉で伝えられる子ども」に近付くことができました。　　他校の先生方からも，素晴らしい授業だったとの感想をいただきました。

参加の先生方に囲まれても臆せず，グループごと昆虫かどうかを活発に話し合っている３の２の児童たち

１０月のトピックス

全校飯ごう炊さん　１０月７日（金）

西小の伝統行事，全校飯ごう炊さんが，今年も縦割り班で協力して楽しく実施できました。

食事の後は，林間で遊んだり，ＰＴＡ顧問の倉石さんや県の林務課の方に弓や木のメダルを作っていただいたりしました。

お腹も心も満タンになった１日でした。

校内音楽会　１０月２６日（水）

これまでの音楽の授業で培ってきた音楽表現の力を，運動会が終わってから約１ヶ月間，音楽会に向けて一生懸命に取り組んできました。音楽会では，その成果を十二分に発揮して，素敵な発表をしてくれました。

ご家族の皆さんの応援，ご来賓地域の方々の温かい拍手をいただきました。ＰＴＡコーラスの皆さんにも，素敵な歌声を聞かせていただきました。ありがとうございました。

校長講話　１０月

Ｈ２３．１０．１２

今日はみなさんに「私の得意なことは、好きなことは何だろう」について考えたいと思います。

そのむかし、アメリカにウィリーという男の子がいました。今から 100 年以上も前のことです。ウィリーは雪を見るのが何より好きでした。

ウィリーは雪がふると大喜びで飛び出します。そして、舞い落ちる雪をしっかりと見つめるのです。チョウやリンゴの花もきれいだけれど、雪はどんなものにも決して負けない。ウィリーは思っていました。

お母さんから古いい顕微鏡をもらったウィリーは、いろんなものを観察しました。もちろん一番のお気に入りは雪です。ウィリーの仲間が雪合戦をして遊んでいるときも、ウィリーはじっと雪を観察していました。顕微鏡で見る雪の結晶は思っていたよりさらに美しい姿でした。そして、同じ形をしたものはひとつもありません。ウィリーはこの雪の美しさをみんなにも知ってもらいたいと考え、何枚もスケッチしました。けれども、雪はスケッチができあがる前に融けてしまいます。

16 歳になったウィリーは顕微鏡つきのカメラがあることを知りました。それはお家のお金をほとんど使ってしまうほどの値段が高いものでしたが、ほしくてほしくて仕方がありませんでした。ウィリーの気持ちを知っていた両親は、飼っていた牛を売り、世界で一番立派なカメラを手に入れてくれました。

喜んで雪の写真をとったものの、写真には何も写ってくれません。いろいろと工夫をして、何度も何度も失敗を繰り返しましたが写ってくれません。でも、ウィリーはあきらめません。やがて冬が終わってしまいました。次の冬がやってきます。あるとき、ついに雪の結晶を写す方法を見つけたのです。「やった。これで、みんなに雪の美しさを見てもらえる。」

しかし、雪になど興味を持つ人はいません。村の人も、「雪なんて、どこにでもある。珍しくない。写真なんかいらないよ」でもウィリーはいつかきっと世界中の人が自分の写真を喜んでくれる日が来るだろうとおもっていました。だから、他の人が家の中で暖まっている間、外にたって黒い板を持って落ちてくる雪を集めたのです。きれいな雪をつかまえるまで、寒さも気にせず、何回も何回も繰り返します。一冬の間に撮れる写真は２～ 30 枚ほどのこともありましたが、だんだん写真の数も増えてきました。

ウィリーは雪の写真を人にあげたり、安く分けてあげたりしました。夜になると友だちの家で、スライドでみてもらうこともありました。そんなことを繰り返すうちに、ウィリーは雪をよく知っている人として、雑誌に発表するようになり、遠くからきた学者や気象に関心のある人たちに雪についてお話しを求められるほど有名になりました。やがて、科学者達が協力してウィリーの撮った雪の結晶の写真集が本となりました。ついに世界中の人に喜んでもらえる日が来たのです。その本が出版されたとき、すでに 66 歳となっていました。子どもの頃、好きだったことがやっと実現したのでした。

それからほどなく、ウィリーは亡くなってしまいました。けれども、彼のことを忘れまいと、記念碑が建てられ、村人は子どもから孫へとウィリーについて話をきかせました。その子どもたちが大きくなり、ウィリーが死んでから 40 年後に立派な博物館が建ったということです。

私は理科が好きで理科の先生になったのですが、好きになったのは、小学校の３～４年生頃からだったと思います。お父さんから雑誌をかってもらい、その付録についてくる実験を楽しみにしていました。やがて、楽しみは、ラジオやコンピュータに広がってきました。その中からちょっと変わったことを見てもらいましょう。この笛みたいな物に息をいれると、電気の信号に変わります。するといろいろなことができます。

これらが一般の人でもできるようになるまでは、音の研究、コンピュータの研究など様々な知識が活用されています。それらの研究は、興味を持った人によって進められてきたに違いありません。私もみなさんにお話しするためにいろいろとやってみました。音が出なかったり、思い通りに行かなかったりで、苦労しましたが、やっとここまでこぎ着けました。ちょっと聞いて下さい。

このように、今でも好きなことをやっているととても楽しい時間が過ごせます。それをさかのぼってみると、自分の得意なこと、好きなことというのは、小学生のころから続いてきたのです。

みなさんには、どんな好きなことや得意なことがあるでしょうか。